

【ミャンマー—製造】

豊橋設計、工科大で機械C A D教育開始

機械・電気電子・ソフトウェア設計の豊橋設計（愛知県豊橋市）とミャンマーの日系人材会社ジェイサット・コンサルティング（J—S A T）は1日、工科大学マンダレー（T U M）から先に受託した機械設計の3次元（3 D）C A D技術習得コースを始めた。3 D C A Dの授業は全国の大学に先駆けた試みという。

豊橋設計は、自動車部品の加工や組み立ての専用工作機械、半導体製造装置の設計、3 D C A Dの学校運営で培ったノウハウを提供。T U M卒で4年前に同社に入社したニ・ニ・ウィン・シュエさん（29）が講師を務める。J—S A Tは大学側との調整や全体の管理のほか、パソコンやネット回線、3 D C A Dソフト「ソリッドワークス」を提供する。

授業は月～金曜の毎日2時間、4カ月コースで、最終テストは豊橋設計の日本事務所とオンラインで行う。生徒10人は機械学科の生徒を中心に大学側が選出。全員が日本企業への就職を希望し、今年6月から始まった日本語クラス、12月7日に始まる次の日本語クラスにも参加する。

T U Mはミャンマー・エンジニアリング協会（M E S）の理事を務めるシン・ソー学長の人脈を生かし、ミャンマー全国への機械C A D技術の普及を目指す。豊橋

設計とJ—S A Tは今後、別の大学でも同様のクラスを開く予定。今回始まった1期生の授業には大学教員2人も加わり、教育ノウハウも伝授。将来は大学が独自に教え、日本から遠隔支援する体制を築く。

豊橋設計は2013年にミャンマーに進出し、日本の業務の一部を現地で受託している。



初日の3 D C A D技術習得クラス＝1日、マンダレー（J—S A T提供）

【ミャンマー—車両】

自動車輸入、17年は左ハンドル車のみ許可

ミャンマー商業省は2017年の自動車輸入について、左ハンドル車のみ許可すると発表した。政府系英字紙グローバル・ニュー・ライト・オブ・ミャンマーが2日伝えた。

同省によると、17年に輸入できる車両は左ハンドル車のみ。委託販売（コンサインメント）方式の下、古い車両の廃車証明書を取得して新たに輸入する場合、11～14

年に製造された車両の輸入が認められる。個人輸入ライセンスの場合、15年以降に製造された車両しか輸入できない。バスや建機は07～17年製を輸入できる。

政府はかねて、左ハンドル車への移行を促す方針を示してきた。ミャンマーでは日本製の右ハンドルの中古車が主流だが、道路は右側通行で本来は左ハンドル車が前提となっている。

【ミャンマー—車両】

ヤンゴンへの車両購入権制度導入、業界は反対

ミャンマー最大都市を抱えるヤンゴン管区政府がシンガポールにならった車両購入権（C O E）制度の導入を示唆していることに、自動車業界が反発している。ミャンマー・タイムズが1日伝えた。

正規自動車販売店協会のアウン・ウィン副会長は「C O E制度は、島国のシンガポールでは機能しているが、ミャンマーのような大きな国の商都であるヤンゴンには適さない。政府はC O E導入の前に、まず公共交通機関を改善すべき」と主張。「道路インフラを改良せずに車両数を制限しようとする、政策は現実的ではない」と批判した。

韓国・大宇の販売代理店ミャンマー・コーチ・センターのチョー・チョー・アウン社長は、「政府がC O E制

度の導入を検討していると聞いているが、まだ何も明らかでない。まずは自動車輸入政策を公表すべきで、C O E制度の是非の議論はそれからだ」と述べた。

ヤンゴン運輸庁（Y R T A）のマウン・アウン長官は輸入政策について、「C O Eを含む複数の制度を検討しているが、まだ決定していない」と述べるにとどめている。

ミャンマーでは3月末に国民民主連盟（N L D）政権が誕生、ヤンゴン管区政府は4月以降、交通渋滞のさらなる悪化を防ぐとして、新車、中古車を問わず輸入を原則禁止している。ピョー・ミン・テイン管区首相は先に新車重視に舵を切ると発言したが、具体策は明らかにされていない。